

県教 研

長野県教育研究会

11/2

(土)

いっしょに話しませんか？

子ども、学校、教育を

全県集会 共学国語(アンタイン) 10:00~12:00

国語分科会・ベビー・ワークショップ(長野県立上田美術館交流館)

「ままならない体と生きる」

講師 伊藤亜紗さん 長野県立上田美術館 学芸員

分科会 13:00~17:30

時間	分科会名	会場	講師・司会者
13:00	国語分科会	上田美術館交流館	伊藤亜紗さん、佐藤あかりさん
13:30	国語分科会	上田美術館交流館	伊藤亜紗さん、佐藤あかりさん
14:00	国語分科会	上田美術館交流館	伊藤亜紗さん、佐藤あかりさん
14:30	国語分科会	上田美術館交流館	伊藤亜紗さん、佐藤あかりさん
15:00	国語分科会	上田美術館交流館	伊藤亜紗さん、佐藤あかりさん
15:30	国語分科会	上田美術館交流館	伊藤亜紗さん、佐藤あかりさん
16:00	国語分科会	上田美術館交流館	伊藤亜紗さん、佐藤あかりさん
16:30	国語分科会	上田美術館交流館	伊藤亜紗さん、佐藤あかりさん
17:00	国語分科会	上田美術館交流館	伊藤亜紗さん、佐藤あかりさん
17:30	国語分科会	上田美術館交流館	伊藤亜紗さん、佐藤あかりさん

申込先

長野県教育研究会

〒247-0292 長野県上田市上郷1-1-1 上田美術館交流館1階

TEL: 026-234-2216 FAX: 026-234-2217

申込先

長野県教育研究会

〒247-0292 長野県上田市上郷1-1-1 上田美術館交流館1階

TEL: 026-234-2216 FAX: 026-234-2217

1

聴

2024 年度 こんな話を聴いてきた

教育のつどい in 大阪
(全国教研)

「なぜ教育とメディアが狙われるのか？」 歴史改ざんと『愛国』の危うさを考える」



齊加尚代さん MBS (毎日放送) ドキュメンタリー担当ディレクター 映画「教育と愛国」監督

教育は誰のためにあるのか、何のためにあるのか。
教育基本法改悪により、「政府見解」が教科書に書き込まれ、教科書通りの授業が行われるようになった。
社会に対して物を言うことを臆する、勝ち組になれないことを自己責任に帰してしまう傾向が強まっている。この傾向は、効率的に、合理的にという競争原理の日常化などがその背景にあるのではないかと。そうした圧力が「競争に勝ち抜けない子どもはいる」と子どもたちを傷つけ、学ぶ楽しさを知る学習権を妨げ、学校のなかで差別や偏見を植え付けている。公教育があるべき姿から離れていく、こうした流れをしっかりと見つめていかなければならないし、政府に忠実な者だけが教壇に立つことを許されることは決してあってはいけいない。
戦前のように学校現場が一色に染まるとは思わない。戦争を遠ざけるには差別や偏見をなくすことが必要で、それは子どもたちの心に平和を求める心を育むことでしか対抗できないと、いろんな先生が対抗してくださっているから。これから本当に人間的な関わり、子どもと先生の人格的なふれあい、対話がますます大事になってくる時代ではないか。

「ままならない体と生きる」

教育の現場でもマニュアル的なものはたくさんあるが、それだけでは済まない感覚が皆さんの中にあるのではないかと。日本は良くも悪くも社会が高度にシステム化されていて、それによって解決策を見いだしている。一方で、「手作りのケア」の入る余地がどんどん小さくなっている。これだけ社会がシステムティックな国だからこそ、意識的に風穴をあけることが必要ではないか。マニュアルは効率的かもしれないが、一つの正解を全員に当てはめてしまう。それに対しては、倫理が必要だ。倫理とは、自分と相手の関係の中で最善の選択を考えながら、創意工夫の中で手作りのケアをしていく態度のこと。当然、倫理にはリスクもあり、両者の相互補完が重要ではないか。規範とかマニュアルに対し、どのぐらいそれを揺さぶることができるか。複数の考え方、複数の価値観が存在するときに、「いい加減」(reasonable)な対応、行動で「納得できる」ポイントを探ることが大切になる。効率が悪いかもしれないが、本当に大切なのは人間を大事にする倫理的な態度であって、それを非常にシステムティックな日本社会の中にどうやって作っていくのか。それが、ままならない体を抱えながら生きている私たちが考えなければいけない課題ではないか。

長野県教育研究集会
(県教研)



東京科学大学 リベラルアーツ研究教育院教授 専門は、美学、現代アート 伊藤亜紗さん

第1回教文総合研究会
(総研)

「今日の教育改革は 高校教育をどこに導くか」



児美川孝一郎さん 法政大学キャリアデザイン学部教授 教職課程センター長 専門はキャリア教育。

現状の絶望的な学校の状況。「令和の日本型学校教育」でがんじがらめの現場であるのに、結局は様々な施策を丸投げされている。競争主義、管理主義、評価主義により現場の負担を増すばかり。こどもの学びや成長は大丈夫なのか。学びの自己責任化は格差を拡大していく。教師の分断と脱専門職化が起これ、公教育は市場化・民営化していく。携わる企業は取得したデータをデータ活用していく。公教育の統治システム化も進み(デジタル監視と資源動員)新たな戦前とのドッキングも危ぶまれる。

対抗軸として我々はどうしていくのか? 「学校は何をやるどころか」を改めて考えたい。それには、共同での豊かな学び、集団の中での人間的諸能力の獲得、市民と主権者の育成、働く場の主人公の育成を目指すべきである。そのための実践には、ICTは必要なら使う、という主体的な姿勢を持ち、AIドリルやSTEAM教育では代替できない豊かな学びの創造を模索したい。それには特別活動の意義と価値を再認識し、「教育のサービス消費」の意識を変えることが重要。「権利としての教育、教育の機会均等、教育の公共性」を改めて認識し、保持に努めるべきではないか。

「子どもの学びの理解と ICT の有効な活用 ～子どもたちはゲームやスマホで何をしているか～」

ICT 利用は条件を整えるためのツール。

教師が評価を公平・客観的にしようとするほど、評価基準に段階が生じ評価が頻回になる。その結果、指示を理解して自分で計画的に遂行できる子どもが高評価になり、できない子は支援や支援が必要とされる。

合理的配慮(リーズナブルアコモデーション)とはゴールを変えずに手段を調整することである。手厚い特別支援教育、特別待遇を国は進めてきたがそのことは、普通の人と同じ生活を可能にしようとする既存のシステムへの組込方向であり結果的にインテグレーションであった。インクルージョンとは多数派向けの仕組みを見直し、その結果いろんな生徒が参加可能となるような既存システムの改善である。

現在想定されている「個別最適化された学習」は、学び方の多様性を謳いつつ、学ぶ内容は多様化されていない。ゴールが「学力」ひとつであるため無理だと考えられる。人は特定の環境や関係性の中で能力を発揮している。それぞれの子どもたちが、どういう環境や関係性で最も高いパフォーマンスを発揮しているかを見る必要がある。

滋慶医療科学大学大学院医療管理学研究科教授 研究分野: 特別支援教育 岡耕平さん

第2回教文総合研究会
(総研)



「ジェンダーの視点から考えるデジタルテクノロジー」

第 4 回総合研究会 (総研)

ジェンダーの視点から考えるデジタルテクノロジー、ソーシャルメディアと AI を中心に。デジタルテクノロジーは、「経済、政治、社会生活などあらゆる面で急速に君臨しつつあり、「人間に大きな影響をもたらしている。デジタルテクノロジーとジェンダー関連では「性」に基づく不均衡な社会関係（権力関係）が生じていて、「人間」をめぐる排除と包摂が支配や抑圧、暴力を生み出してきた。ソーシャルメディアには功罪があり、女性・マイノリティーを世論形成や社会変革においてエンパワーする面と、性差別助長、ヘイトなど暴力や害悪の（再）生産をうむ部分があり、メディアリテラシーは重要になっている。近年脚光を浴びている人工知能(AI)とジェンダーでは、性的偏見・差別の（再）生産、AI の性的害悪助長があり、アルゴリズムによる性差別、人種差別が発生している。生成 AI 悪用により、女性身体の性的モノ化が進行していて、大きな社会的問題になっている。これらの状況に対しては、異なる立場の人々、組織間対話、教育の役割ついて、「AI とジェンダーに関する提言」が示されている。



明治大学 情報コミュニケーション学部准教授 社会学、ジェンダー研究、メディア／文化研究、田中洋美さん

第 5 回教文総合研究会 (総研)

「20 世紀と 21 世紀の授業の画一化・貧困化を反転する」



表の声と出来上がる実態がかけ離れていることがある。教育の世界にもしばしば発生している。真実味のない声、偽装したと思えない事態がある。」そんなとき、実態からこぼれ落ちる小さい声、隠されてしまうもう一つの声を探す。その声の中に可能性が見える気がすることもある。個々の教師は、画一化を最初から心底願っている人は少ない。にもかかわらず、構造の中で画一化してってしまうのである。そうだとすれば、子どもに良い教育を保障するという憲法的な観点と教育の条理から現行のシステムを捉え直していく必要がある。まず第一に、教材選択権を保障する必要がある。第二は、子どもの分り方や思いもしくはリアルな声に注目することである。数量や記号に変換されたデータではなくて、生の声と姿に注目することである。教師の専門職性と子どもの分り方への注目を通じて、子どもに応答する創造的な教育を始めることができる。人間教師と子どもの即興的性格の呼応する活動にしていくことが期待される。現在問われているのは、デジタル化されたシステムに乗った教育活動をそつなくこなす定型的教師像を目指すのか、それとも教育の画一化と学びの貧困化に専門性をかけてタクトを振る教師と教育活動を目指すのかなのである。（講師最新刊より抜粋）

子安潤さん 愛知教育大学名誉教授 日本教育方法学会理事 日本カリキュラム学会理事

「高校生が自らの人生を主人公として歩む 『高校生のキャリア意識形成』を考える」

第 3 回教文総合研究会 (総研)

総合学科は高校生の「キャリア意識」をどう形成するのか、普通科の自治活動は「キャリア意識形成」にどう貢献するのか。民主教育研究所年報 2022（第 22 号）の特集テーマは、「高校におけるキャリア意識形成 ―現代の青年期教育を問い直す―」。その巻頭で児美川孝一郎さんは、高校教育論の今日的課題として、高校教育が現在の教育「改革」において「狙い撃ち」にあっている背景的な事情やねらいを構造的に解明する必要があり、高校教育現場の実態への深い考察と解明が必要、高校で学ぶことの意味と意義が実感できず「空洞化」している深刻な状態の下で「通過点」化しかねない高校教育をいかに実質化していくのが課題としている。「高校教育改革のパイオニア」と位置付けられた総合学科の創設以降の実態、高校教育「改革」の主要なターゲットになり続けてきた普通科高校を対象に普通科「進学校」と括られる高校の現状と課題、可能性を明らかにする。対象は、長野県内の総合学科高校 B 校と普通科高校 F 校。F 校を対象としたのは、進学がメインだが、極力、大学進学のためのカリキュラムの最適化はせず行事や部活動など学校自治を通した学びに重きを置く「普通教科を広く学ぶ」普通科高校の特長を抑えた高校であることから。B 校と F 校における 10 年におよぶ調査結果の考察から学ぶ。



民主教育研究所 1992 年設立 教育実践・研究に関わる情報収集と交流、調査などを行う。「人間と教育」（旬報社）発行

支部教研講師も豪華な顔ぶれ



更埴支部教研
岡根谷実里さん



佐久支部教研
金平茂紀さん



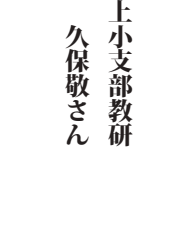
上伊那支部教研
鈴木大裕さん



下伊那支部教研
和田周晋さん



長水支部教研
中西新太郎さん



上小支部教研
久保敬さん



諏訪支部教研
小池みはるさん



話

学びの機会は職場から そして 全国まで 教科に関して さまざまな教育課題に関して

教文会議で行う研修は、各職場単位で行う「職場教研」、支部単位での「支部教研」と「支部ミニ教研」、全県から集まって行う「県教研」、そして、全国の仲間と学び合う「教育のつどい（全国教研）」があります。「職場教研」「支部ミニ教研」は、各職場と支部が創意工夫を凝らしてさまざまな研修活動を展開し、「支部教研」「県教研」「教育のつどい（全国教研）」は、教科別、あるいはさまざまな教育課題別に分科会を実施しています。教文会議に置かれている教科別・課題別の 27 研究会が、県単位での「全県研究会」も実施しています。

松本筑摩高校で職場教研を実施！



第 1 回職場教研は 5/21。この時期だけのレアな研修「朴葉餅づくり」を行いました。実習では、班ごとに餅の中にあんこを入れ朴葉で包んでい草で結びました。蒸し始めると、調理室中に朴葉のいい香りが…。約 20 分蒸したら完成です！ ほぼ全員が初めて見る朴葉餅の姿に感激。開けると朴葉の香りが広がって、美味しく頂きました！ 7 月 29 日には第 2 回研修会「土と親しむ」を実施。空気を入れないように力を入れてこね、「タタラ」という平たい板状に伸ばします。まわりがひび割れてしまうので、少しずつ、少しずつ。ひび割れてしまい、「生徒は切ないってことがわかった」。生徒の気持ちがわかる研修にもなりました。作った作品、木の葉のお皿とコーヒークップは、十分に乾燥させてから窯で焼き上げます。完成した作品は、10 月の文化祭「くれき野祭」にて展示します。ぜひ、ご覧ください。



不登校生徒の居場所「フリースクール」についての講演を聴き

「多様な学習ニーズ…」への対応を考える 諏訪支部教研

10/5（土）に、諏訪支部教研を開催。講演会は、この地域で長年に渡りフリースクールを運営されてきた小池みはる先生をお迎えしました。「多様な学習ニーズ～学び」が始まり各校手探りで対応を迫られる中で、不登校生徒の話題はタイムリーでした。県内フリースクールの現状、学校とは異なる生徒とのスタンスなど、事例を交えてお話しくださしました。学校というシステムに嵌ることのできなかった生徒や保護者の拠り所として、成長を見守っている様子が伝わりました。今後、学校以外の選択肢としてフリースクールの存在感が増すと共に、学校との連携も望まれてくることを感じさせられました。分科会では本音を交えた情報交換を通して楽しく刺激を受けたという感想が寄せられ、官製研修にはない教文の良さを再認識しました。



台所研究家 岡根谷実里さんを迎えて！

更埴支部教研

9/21 更埴支部教研開催。全体会では、長野県出身の世界の台所探検家、岡根谷実里さんを講師に迎え、世界各地の家庭の台所を訪れて一緒に料理をした経験、料理から見える社会文化背景について、オランダからの Zoom 講演会を視聴。「ブルガリアは本当にヨーグルトの国？」などのトピックで、現地での料理写真を交えながら、当時の思い出や、歴史と文化、社会背景などを探究したお話をお聞きました。教科別分科会では、社会科と理科研究会合同で「善行寺地震」を題材に交流し実際にフィールドワークへ。家庭科研究会が千曲市のお店でレザークラフトの研修会を、美術科研究会では各校授業作品を持ち寄り、評価の扱いを検討したりしました。国語科研究会では、新教育課程における評価について、各校の課題と工夫を交流しました。



フィールドワーク「地元の戦争を知ろう」 上伊那支部ミニ教研

上伊那支部ミニ教研では、「地元の戦争を知ろう」をテーマに、飯田市平和祈念館と満蒙開拓平和記念館を訪れました。飯田市平和祈念館では、飯田下伊那地域の戦争の傷跡、とりわけ「731 部隊」についての展示と、展示をめぐる紆余曲折、自治体がこうした展示を行うことの困難と展望を学びました。満蒙開拓平和記念館では、レクチャーを受けた後、館内の展示を見学。長野県が送り出した開拓団員の数が突出して多いことを知り、そこに学校教育が大きく関わっていたことを、講演と展示の証言から学びました。「戦争」は、遠い過去の、ありえない日常ではないのだと感じ、「戦争はだめ、平和がいい」だけの漠然とした思いに留まらず、歴史を学び、社会のありようにも関心を向け、そこで得たことや考えたことを、生徒たちに伝えることの大切さを感じています。



豪雨の中、上伊那農業高校・伊那中学校に結集 県教研

11/2(土)、3(日)、豪雨の中、上農と伊那中を主会場に、オンライン併用で県教研が行われました。全体会の記念講演は伊藤亜紗さん(東京科学大学教授、美学者)による「ままならない体と生きる」。複眼的視点の大切さ、逡巡とためらいのある属人的で流動的な対応の大切さ、規範を揺さぶる「いい加減」な対応の大切さなどをお聴きしました。午前開催の全体会参加者は230人、午後行われた28分科会には330人が参加しました。分科会の実参集、オンライン、オンライン併用のハイブリッドの形態で行われ、教職員に限らず、フリースクール関係をはじめとする一般市民の皆さんも参加。複数の分科会で高校生も参加し、レポート発表を行うとともに、討論にも参加し、大きな刺激を与えるとともに、議論の深まりにも大活躍しました。



教育のつどい in 大阪 暑い大阪で熱い学び

全国教研

8/16(金)~18(日)、大阪市内で教育のつどい(全国教研)が行われました。長野県からはレポーター9名を含む18名が参加。辰野高校の生徒2名も参加し、「C:主権者の教育と生活指導・自治活動」分科会でレポート発表、討論参加をしました。会場からの質問に堂々と自らの意見を述べる姿は、参加者に大きな刺激と感銘を与えていました。全体会の記念講演は齊加尚代さん(毎日放送ディレクター 映画「教育と愛国」監督)による、「なぜ教育とメディアは狙われるのか」。「教育では批判的思考が最も大事。『だが、しかし』と主体的に考える子どもの育ちに携わることが大切」と述べました。全国からオンラインを含む4300人が参加し、3日間、熱心な討論が行われました。教育のつどいで発表されたレポート(一部)は教文通信で紹介しています。



教科別 家庭科教育研究会

教科別研究会・課題別研究会

教文会議には、教科別研究会と課題別研究会とがあり、両方の研究会に所属して研究活動に参加することができます。支部教研あるいは県教研で、それぞれの研究会が中心となって分科会が行われます。さらに、いくつかの研究会では「全県研究会」として、同じ教科・同じ課題意識を持つ仲間が集まり、講演を聴いたり、授業実践の交流をしたり、生徒の話を聴いたり、巡検に出かけたり、討論をしたり、、、研究会独自の活動もしています。時には、支部教研や全県研究会とのコラボ企画も。



教科別 理科教育研究会

実参集・オンライン開催

支部教研・県教研・教育のつどい(全国教研)・全県研究会などいずれも、参加しやすい形態を追求していて、開催方法は、実参集、オンライン、参集にオンラインを併用するハイブリッド形式など、多様な参加方法を選択できるようにしています。

課題別
ジェンダー
平等教育参加
課題別
学校づくり
共同

考

教文研究会で こんなことを学びます

学び、考えるのは わたし

「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」

教育公務員特例法において、教員が自主的に研修をおこなう権利が認められています。ところが昨今、政策的に研修の義務面のみが強調され、履歴の記録義務化により新たな「管理」が強まろうとしています。しかし、管理されるまでもなく研修する主体は私たち。

教文会議は、教職員の学びの機会を仲間の力で作りあげてきた自主的な教育研究組織。教科別・課題別に 27 の研究会を設置しています。長野県教育委員会との確認で、各研究会が主催する「全県研究会」および教文常任委員会が主催する「総合研究会」等の自主的・自発的研修は、教育公務員特例法第 22 条に基づく研修として位置付けることができ、Plant においては「任意」研修として記録することができます。県教委による官製研修「キャリアアップ研修Ⅲ・校外研修 B」における自校以外での研修の機会としても認められています。

教文会議での学びの機会を最大限に活用し、仲間と一緒に研究、交流をしませんか。学び、考えるのは私たちです。

自らの足で歩む

足跡は必ず残る

■国語



国語研究会では、コロナ禍により活動が停滞していた時期もありましたが、21 年度に全県研究会「徒然草をよみなおす」を開催して再始動し、22 年度は特別支援教育研究会と定通教育研究会との共催で、作家の石井光太さんを講師に、「誰が国語力を殺すのか～言葉とは、生きる力～」、23 年度はちょっとお休みして 24 年度は長野県出身の詩人杉本真維子さんが、信毎主催で行った講演「詩の情景としての長野市」とワークショップに相乗りさせていただく形で声かけをしました。

多忙化の波に容赦なく飲み込まれ、単独での全県研究会の企画・立案もままならない状況にはなっていますが、なんとか知的好奇心をくすぐるようなものをお届けできればと思っています。その節はぜひよろしくお願いします。

■社会科

社会科教育研究会では、県教研を中心として、主体的な学びを中心とした授業実践や ICT 活用・観点別評価について、教育現場の視点から話し合いを深めていくことにより、今後の取り組みにつながる手がかりや新たな視点を見出すことができる場となれることを目指して活動を行っています。社会科の学習内容は多岐にわたり、それぞれが専門性の高い科目です。困っていることや上手いかわないこと、疑問に思うこ



となどを、経験に関係なく気兼ねなく出し合うことができ、楽しく充実した研究会にしていきたい！と思っています。《正副研究会長》

田澤秀子・鈴木実・綿内真由美・村田直樹・市川尚智・上條隆志・宮坂正議



■外国語

みんなで JOINER になりませんか？「研修」って言葉を聞くと、なんだかやらされている感がありませんか？ その点「教文会議」は強制ではありません。皆さんから講師を推薦してもらうことだって OK です。変化の波に翻弄されてきた外国語（英語）教育は、小学校における「外国語活動」と教科化など、課題が山積みです。その中で、小中高大の教員や研究者が一堂に集う教育研究集会は、今まさにその価値を増しています。ぜひご参加ください。大いに語り合いましょ。みんなでワイワイガヤガヤ 楽しみながらお互いのスキルアップをしませんか！

■数学

学校現場での多忙化は相当なものとなっています。土曜日に研究会を行うにしても難しい状況です。競争原理はどんどんと進行し、実績を上げることが求められています。こんなときにこそ余裕をもつてものごとを違う角度からみることが必要です。最近はインターネット等により様々な情報が得られます。授業で何か工夫ができないか、または目新しい教材が求められないかなど、いくらでも知識として身につきます。一方で、余裕のない日常により、他校の先生達との交流の時間も確保できない状況が生じ、研究会の重要性は高まっています。学校現場でも多くの研修や交流を求める希望はあるはずです。インターネットでは得られない知識を求めましょ。

■理科



教文内の組織としては「物理・化学教育」「生物教育」「地学教育」の 3 つの研究会ですが、共同して活動をしています。大きな柱は「全県理科教育研究会」と「県教研」になり

ます。全県理科教育研究会は例年 9 月上旬に支部の持ち回りで実施されています。1 泊 2 日で公開授業、講演会、研究発表、巡検を実施し、研鑽と交流を図っています。県教研は支部教研からの推薦レポートを中心とした研究発表会で、小学校、中学校、高校、大学の先生方が参加し、教育全体を俯瞰できる貴重な機会になっています。「もっぱらモノから学ぶ」ことを根底に、生徒から好評で生徒の成長に寄与する授業実践研究を行っています。

■芸術

芸術は、「音楽」「美術」「書道」の 3 つの研究会があります。現在は、県教研を中心に、義務の先生方も一緒に研究活動をしています。理論、実践、実技を学んでいます。

■家庭科

「深い学びにつなげるにはどうしたらいいか」「実習で付けたい力は何か」「学びが生活の中で活かされているか」家庭科教員は一人配置の学校が多いですが、家庭科研究会では支部活動や学習会などで多くの先生方とのつながりがあります。日々の授業の悩み、教材のアイデア、授業実践の積み重ねを共有してきました。家庭科研究会では、家庭科教育に関する基礎調査、全県学習会、県教委との懇談会、県教研、家庭科情報発行、研究集録の発行を行っています。全県学習会は昨年 128 回となりました。各支部では、支部教研のほか、支部独自の研修会や公開授業を行っています。校内で一人で悩むのではなく、教文家庭科で、情報交換・アイデア交換し、学びあいましょう。



■情報

「情報」の授業のこれまでとこれから、校内ネットワーク活用法と問題点など、機器の活用に限らず、研究・利用法、スマホ・タブレットとの付き合い方などなど、一緒に考えましょう。

■技術・職業

技術・職業教育研究会は農業科・工業科・商業科で構成する研究会です。また、県教研では中学校の技術科の先生方と一緒に分科会を組織しています。第 2 期高校再編・整備計画では第 2 期再編の「実施方針」に書き込んだ「学習効果と投資効果の最大化」を具現化するため、専門高校の「総合技術高校」への集約化が進行し、専門学科における極度の専門性の希薄化が危惧されています。本研究会では地域と共生した日々の授業実践を活発に交流し合うことにより、それぞれの地域で果たしている専門教育の役割をより明確にしていきたいと考えています。多くの先生方の会員登録ならびに研究会

への参加をお待ちしています。

【2024 年度的全県研究会】

テーマ 「高校専門教育の再編と職業教育の創造」

～地域と結びついた職業教育の実践～

実践報告「白馬の地域資源を活用した授業実践」

白馬高校 商業科 浅井 勝巳 先生

■図書館教育

探究学習や入試改革、ICT 機器の導入などにより、図書館を取り巻く環境も変化しています。今後、図書館が授業に関わる機会が増えることが予想されますが、今、皆さんが必要としているのはどんな図書館で、どんな司書で、どんな情報でしょうか。図書館教育研究会では「次の日から役に立つ」をモットーに研究会を開催しています。“こんなことをやって欲しい”等の要望は大歓迎！新しい情報や知識を共有し、みんなで作っていく研究会です。使い勝手の良い学校図書館にするには、司書だけでなく教員目線の先生方の意見も必要です。本や図書館が好きという先生方、ぜひ司書と一緒に使いやすい図書館を目指しましょう。

■学校保健

2024 年は学校保健研究会にとって、全県研究会が第 100 回目を迎える記念の年でした。

夏の第 99 回全県研究会では、「災害」について、4 名の実践報告、防災アナウンサー×環境省アンバサダーの奥村奈津美様の講演、長野県危機管理防災課指導の「クロスロード」の演習を通し、災害時の対応や備えについて学びました。

冬の第 100 回全県研究会では、「先天性疾患・障害」について、3 名の実践報告、信州大学医学部遺伝医学教室教授の古庄知己先生の講演、グループ討議を通して、教育環境の整備について学びました。また、100 回を記念し、集合写真の撮影と記念品を配布しました。

11 月の教育研究集会では、頭部外傷アセスメントシートの作成、養護実習生を受け入れてみての振り返りの内容で、どちらもとても参考になる内容でした。

近年、学校を取り巻く環境は大きく変化しており、子どもたちの健康課題は多様化しています。「輝く未来と生徒たちの笑顔のために」、学校保健研究会で、仲間と共に学びを深めましょう。



■参加と共同の学校づくり、子どもと地域

(旧 学校づくり、教育課程研究会 高校改革・入試制度研究会 教育史・教育法研究会)



本研究会は、「教育史・教育法」研究会と「教育課程・学校づくり」が課題別研究会の再編統合により発足しました。2024 年度は上伊那教研集会とコラボして土佐から、鈴木大裕さんをお呼びして、「遊びのないところから新しい世界は生まれない」というテーマで講演会を実施し、大盛況でした。今後、再編に伴う学校象を「生徒を主体とした学校づくり」「生徒や地域の声を活かした学校づくり」の視点から、理論としての研究だけでなく、頑張っている生徒たち・教職員の実践の交流を通して考えていきます。今年は「開かれた学校づくり全国交流集会」が長野県内で開催される予定です。全国の「生徒を主人公においた学校づくり」の実践から学べる貴重な機会です。そちらのご参加も含めて、よろしく願いいたします。

■多様な学び、生徒理解と発達

(旧；生活指導研究会 特別支援研究会 定通教育研究会)

生徒の実態に則した教育課題の研究を行います。生徒理解、発達課題、特別支援教育などを学び考えあうことで多様性を受け止める高校における自立的活動、進路選択を研究テーマとしています。

■青少年文化

「青少年文化」の研究名称が示すように、守備範囲は広いです。古くは高校演劇の台本作り、視聴覚教育から、文化祭のガイダンス、携帯電話や高校生の文化・生活についての全県アンケートなども行い、研究してきました。最近の全県研究会では、メディアリテラシー・メディア



の子どもたちに与える影響についての講演や、意欲的な生徒会活動をしている高校の実践発表を取り上げています。普段の学校勤務ではなかなか学べないことでもあり、特に若い先生方にはよい研修になること請け合いです。研究会役員も気さくな者ばかりですので、県教研や全県研究会の折には、ぜひお気軽にご参加くださいね♡(写真は前年度全県研究会での、辰野高校生徒会役員の発表の一コマです)

■人権平和・国際・環境教育

(旧；人権・平和・国際研究会 地域と環境教育研究会)

被団協のノーベル賞受賞は核兵器廃絶の思いを世界に強く発信しましたが、ウクライナや中東など世界の紛争は未だ収

束に至っていません。日本国内でも台湾有事を想定した自衛隊増強など「新しい戦前」が始まっていることをメディアは一切報道していません。知らないうちに私たちが戦争に巻き込まれ、加担していくことになるかわかりません。今こそ平和憲法に根付いた教育活動が必要です。この研究会では、子どもの人権を尊重し、平和と個人の尊厳を守り、活かす教育をどのように構築するか、また人権、平和、環境にかかわる国際的課題や現代の社会的課題への対応や解決の方策をテーマとして研究を進めます。

■教育格差と貧困問題・教育条件整備

(旧；教育条件整備研究会 定通教育研究会)

社会経済格差による貧困問題等が、学校や生徒、家庭に引き起こす教育格差や生活に及ぼす影響について分析します。また ICT を含む学校の教育環境などにおいて公教育の果たす役割はどうあるべきかをテーマとして研究を進めます。

■キャリア教育・評価・進路指導教育

(旧；進路指導研究会 学校づくりと教育課程研究会)

キャリア教育のあり方や新たな枠組みの職業教育、中高・高大接続に関する内容や評価の問題に関する内容を研究テーマとしています。特に「高校生就職実態調査」を約 50 年にわたって実施しており、高校生が不適切な面接試験に臨むことのない社会への提言もおこなっています。

■ジェンダー平等の教育

「ジェンダー」と聞くと少しとっつきにくいと感じられる先生もいるかもしれません。しかし、ジェンダーに無関係な人は誰もいません。ジェンダーの視点はまさに「目からウロコ!」の発見を私たちに提供してくれます。私たちや子どもたちを縛る「～らしさ」に囚われるのはもう終わりにしませんか?今年度の総合研究会では、明治大学情報コミュニケーション学部の田中洋美先生に、「ジェンダーの視点から考えるデジタルテクノロジー～ソーシャルメディアと AI を中心に～」という演題でお話をいただきました。ソーシャルメディアの利用や特徴には性差がみられることや、ジェンダーに関わる功罪があることを学びました。日々進化するデジタルテクノロジーに対しての知識を更新し、教員側もメディアリテラシーをつけていかなければならないと感じ、貴重な学びの場となりました。ジェンダー平等について、教育現場における実践も交えて、幅広い視点から共に学び合いましょう。多くの方のご参加をお待ちしています!!



教文会議で一緒に学びましょう！

私たちの学びは、学校の生徒から始まります。時には学校を超えて広く大きな視点で、時には生徒との 1 対 1 の関係の中から。私たちの学びを深め、教育実践を繰り広げるために、教文会議は学びの場、語り合う場を提供します。

教文会議では、さまざまな分野の専門家を招いて講演を聴き、仲間の実践報告を受けて討論するなど交流しています。日々、困っていること、ささやかな疑問から、授業の妙技、最新の教育論、教育哲学まで、理論と実践から私たちの学びを深めます。

何より、悩みや実践について語り合うことができ、思いを同じくする多くの仲間と出会えることができます。

自らの思いを大切に、教職員との交流を通して教育について語り合い、ともに考えましょう！

教文会費は、、、

月額 500 円 or 月額 200 円（任用形態などにより異なります）

（組合加入されている方の県の会費は、確定申告で年額の一部が還付されます！）

- ◆教文主催の総合研究会、支部・県教研への参加費は無料。
- ◆会員には旅費・宿泊費を全額支給します。オンライン会議通信費（1000 円）を、会議参加状況に合わせて補助します。
- ◆その他の研究会・学習会の旅費・宿泊費も、全額支給または一部補助します。
- ◆教文主催、あるいは関連団体が主催する様々な研究会情報をお届けします。
- ◆教文通信（紙版・ウェブ版）を通じて、研究会報告、実践報告、書籍紹介、高校生の活動紹介などをお伝えします。
- ◆教文会議に加入すれば、いいことがたくさん！

教文会議で学ぶために

教文会議でともに学ぶために、まずは 4 月に研究会登録をお願いします。教文会議の職場代表者より登録用紙が回覧されますので、氏名をご記入ください。

教文会議の研究会には、「教科別研究会」と「課題別研究会」があります。両研究会に登録することになりますので、活動内容をご確認いただき、両研究会への記入をお願いします。

①職場回覧用

教文会議「研究会登録用紙」

学校名 (1) 教科別 (2) 課題別 両研究会に登録をお願いします

◎各研究会の研究活動内容の詳細については、「えでゆきゆる」をご覧ください。

(1) 教科別研究会 県所属研究会の登録のための調査です。教文会員登録を確認するための調査ではありません。

研究会名称	会員名簿（研究会学校代表者にのって下さい）	（マスキング）氏名を記入して下さい。	会員数
国語教育			
社会科教育			
外国語教育			
数学教育			
物理・化学教育			
生物教育			
地学教育			
保健体育教育			
音楽教育			
美術教育			
書道教育			
家庭科教育			
情報教育			
農業教育			
工業教育			
商業教育			
福祉教育			
学校保健			
図書館教育			
事務			

教科別研究会

両研究会に
氏名を記入

研究会名称	(日・支) 研究会名称	研究会内容	会員名簿（学校代表者にのって下さい）	（マスキング）氏名を記入して下さい。	会員数
参加と共同の学校づくり、子どもと地域研究会	学校づくり、教育課程、関係者、入校制度、教育史・教育法研究会	教育の多様性、課題、関係性、学校づくり、子どもと地域、関係者、入校制度、教育史・教育法研究会			
多様な学び、生徒理解と発達研究会	生涯学習研究会、特別支援研究会、発達教育研究会	生涯、発達、生涯・発達に関した教育課題、生涯学習、発達教育研究会からの自主的活動、発達教育研究会			
青少年文化研究会	青少年文化研究会	様々な課題を解決する子どもたちと関わりあう。また、自治体活動を通じてのつながりや関係性			
人権平和・国際・環境教育研究会	人権平和国際教育研究会、地域と環境教育研究会	人権平和国際教育研究会、人権、平和、環境などの国際問題、社会問題の解決、環境教育の推進など			
教育格差と貧困問題・教育条件整備研究会	教育格差と貧困問題研究会、教育条件整備研究会	教育格差と貧困問題、教育条件整備研究会からの自主的活動、教育条件整備研究会			
キャリア教育・評価・進路指導教育研究会	キャリア教育研究会、評価研究会、進路指導研究会	キャリア教育、新たな人材の育成、キャリア教育、進路指導、進路指導研究会からの自主的活動、キャリア教育研究会、評価研究会、進路指導研究会			
ジェンダー平等の教育研究会	ジェンダー平等の教育研究会	ジェンダー平等の教育研究会からの自主的活動、ジェンダー平等の教育研究会			

課題別研究会

※記入完了後、教文会議「研究会登録用紙」は、支部と県事務局2カ所に提出してください。支部事務局、県事務局で集約します。

※校内回覧で手書きされたデータは、氏名をExcelシートに入力してください。お手数をかけますがよろしくお願いします。

※県事務局メールアドレス kyobun.nagano-h@educas.jp 支部事務局メールはご確認ください。よろしくお願いします。

教文会議 2025 年度予定

4月12日(土) 教文委員総会 午前11時

4月12日(土) 第1回総合研究会 午後13時から15時
オンライン併用

「教育をめぐる『ことば』を読み解き学校教育を考える」

講師：久保田貢さん

「教育政策と新自由主義—学習指導要領改訂に関わって」

配布チラシ参照

4月26日(土) 第1回運営委員会

5月31日(土) 高教組定期大会 (岡谷市カノラホール)

6月 7日(土) 教文定期代議員会 (会場: 参集かオンライン)

6月21日(土) 第2回総合研究会 (テーマ: 特別支援教育)

7月19日(土) 総研第3回 (夏季合宿研)・

第2回運営委員会 (教育課程研究協議会対策)

8月中旬 教育のつどい 会場未定

9月前半 県下4地区で教育課程研究協議会

11月2日(日) 県教研

北信地区: 県教組会館・長野吉田高校

オンライン併用

11月15日(土) 第3回運営委員会 (例年の日程とすれば)

12月 日(土) 第4回総合研究会

第24回開かれた学校づくり全国交流集会とコラボ

2026年

1月24日(土) - 25日(日) 高校教育シンポジウム

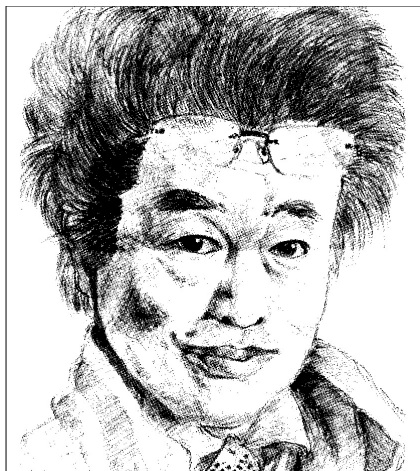
1月31日(土) 第5回総合研究会 (ジェンダー平等の教育)

2月14日(土) 第5回運営委員会 (仮)

3月21日(土) 態勢確立学習交流集会

四月、年度の始まり！教文に出会う！教文に集う！

教文会議は教師、市民の宝もの！



プラザ合意の翌年に教師生活をスタート。初職のあとだったか？青年部の先生が組合と教文会議への誘いにやってくる。なるほど、「先生たちにも研究研修の集まりがあるんですね。」と。横にいた先生も語り始める。そこから教文 40 年目にわたる長い付き合いが始まりました。「教科と課題別の研究会があって、それぞれ書いてね。教科はもちろんだけど、課題別、教師はその他にも学んでいかないと…」

他県の教職員と交流すると教文会議について聞かれることがあります。教文会議は他県にはない、世界にも類を見ない自主研究研修組織といえます。教文会議は教特法にある教師の義務と権利としての研修はもとより、自主研究研修への熱い希求から、県下各地域より発足、1970 年に全県統一して歩んできました。そのあらましは『教文会議四十年史』にまとめられています。

教文会議は「自由に、かつ自主的に教育の内容及び方法の探究・交流を進めるとともに」、「学識を高め、平和を守り、真実をつらぬく民主教育の確立・発展をはか

ることを目的とする。」、自由闊達に実践を交流しあうその術からは、可能性は無限大ともいえます。教文があって良かった！！一授業で困ったとき、分掌で困ったとき、次につなげたいとき、研究会に参加、参加者や役員、事務局の方にたずねてみる、教文会議の存在が日々の実践へ繋がっていくことが多々あります。

新たな仲間、同僚・先輩らとの出会い、実際やってみた、自分の実践を紹介したり、自分には思いもしなかった実践に出会え、授業への大きなヒントを頂いたり、クラス運営をめぐるでも「先輩も悩んでいるんだ」、生の声を聞き、悩みを共有、時には支えられ、励み、よろこび、元気の源の場になります。時には大学研究者をもうならせる実践に出会え、その行き先は人間存在をめぐるところまで繋がります。

そもそも「教育って何のため、誰のため」といった問いに、大きな羅針盤となってくれる教文会議。「毎日が教文活動」、思わず参加してしまう、私達や市民の宝もの、財産。教文会議はそんな存在であり続けてきています。

物事はリアルな現場で起きています。ささやかな中に手応えのある実践が潜みます。健康と同僚性のもと、目の前のリアルな実態から、参加と共同で、日々の教育活動につなげたいと思います。教文に参加、個性豊かな人たちが集います！

ともに今日、明日、未来の教育を創造していきましょう。

長野県教育文化会議 議長 寺尾 真純

行動する高校生

各教科・課題別研究会で、総合研究会で、職場・支部・県教研・教育のつどいで、学校や地域それぞれの場所で活動する高校生の姿を共有し、そこから学びます。2025 年度は、教文通信で積極的に取り上げます。

予 告
つづきは教文通信
2025.01 (4月号) で

快挙！ 飯山高生 MBR（ミドリ・バイオ・リアクター）で世界一に！！

令和 7 年 1 月 18 日（土）～ 26 日（日）に台湾・台北で開催された科学研究の世界大会 Taiwan International Science Fair, TISF2025 において、自然科学部 MBR 班が 1 等賞 (First Award) を受賞し世界一に輝きました。1 年生の時に、ミニ課題研究で調べたミドリムシがきっかけで、2 年生の 4 月に研究を始めた彼女たち。6 月ころ「この大会、私たち出れますか？」と、高校化学グランドコンテストのチラシを持ってきたのがきっかけでした。9 月に一次審査（論文審査）の結果が届き、全国 99 チームの中から上位 10 チームに選ばれ、最終選考会（口頭発表）に進めることになりました。これ以降も研究に没頭し、発表も徹夜で完成させるなど究極を追い求めました。そして、10 月芝浦工業大学（東京都）で開催された最終選考会で全国 2 位の化学未来賞を受賞し、TISF2025 に出場することが決まりました。TISF は国立台湾科学教育センターが毎年開催する台湾最高峰の科学研究コンペティションで、今年は過去最多 30 カ国から計 234 チームの参加がありました。事前に航空券手配、エントリー、アンケート、英語論文、Summary、研究紹介動画、同意書提出などたくさんやること（もちろんすべて英語）があったとても大変でした。それに加えて、韓国での発表、日本学生科学賞最終審査、全国総文祭県予選、SBC 学校科学大賞最終報告、テレビ局、新聞社の取材対応などハードスケジュールを力強く乗り越えていきました。

つづきは、2025 年 4 月号で





そうだ

教文会議がある!!

気になる
生徒がいる
特別支援教育
どう取り組んだら
いいんだろう

各界著名な
研究者の話を
聞いてみたい
論文も
読みたい

明日の授業
どうしよう
いい教材
ないかな

授業や
生活指導
のことで
悩んでて...

ジェンダー
平等の教育を
実現したい

文化祭の
アイデア
が欲しい

包括的
性教育
って何?

すぐ
使える
ネタ...

詳しくは
教文会議HPで



授業実践やクラス運営、生徒会指導経験を語り合い
課題意識や悩みを共有し、お互いにアドバイスをして
第一線の教育研究者の話を聞き、教育理論に触れるため

教文会議で一緒に!!

とにかく
語り合う



長野県教育文化会議 = 教文会議 は 今年で設立 55 年

5回の総合研究会 各研究会（教科別・課題別）全県研究会 職場・支部・県・全国教研

教文会員の皆さん

各研究会にご参加ください。参加費はかかりません。学校出張も可能です。旅費・通信費も保障します。

未加入の皆さん

一緒に学びましょう!! 裏面が加入届です。必要事項を記入して各校教文委員にお渡しください。

研究会の案内、教育実践・生徒の活動・研究会報告が載る教文通信をお届けします。何より仲間が増えます。

研究会は参加費無料、職場教研から全国教研（教育のつどい）まで、参加のための費用も保証します。

教科別・課題別全県研究会、総合研究会は「Plant」で「任意」の研修として記載可

長野県教育文化会議 長野市県町593 Tel;026-234-2216 HP;<https://kyobun-kaigi.org/>

4/12 (土) 第 1 回総研

主権者教育 協働
ウェルビーイング
自立した学習者
スタンダード
ボランティア
SDGs

2025年 第1回総研
教育をめぐる
『ことば』
を読み解き
学校教育を考える

教文会議 第1回総合研究会

4/12 (土) 13:00~
松本勤労者福祉センター2-1
オンライン併用開催

自立、ボランティア、食育、法、きまり、安全、持続可能、主権者教育……この30数年、学習指導要領に新たに登場した、あるいは、新しい文脈に置かれたさまざまな「ことば」たち。その「ことば」に、どのような政策意図があり、それによりどう教育が変容してきたかの。新自由主義のロールバック（破壊）とロールアウト（進展）による統治という視点から、政策的な「ことば」による現在の学校教育の在り方を考え、それらの「ことば」の解釈をきっかけに、本来あるべき学校や教育について討論を通して深めます。



POINT 1 /

ロールバック（破壊）

社会権領域の侵害 学校統廃合
競争と効率化 予算削減 学校
現場の疲弊 教室に穴があく



POINT 2 /

ロールアウト（進展）

破壊の理合せ？ コミュニティ
ー強化による補完 自助・共助
の強固 代替組織・機能の拡大

講演

「教育政策と新自由主義ー学習指導要領改訂に関わって」

講師

久保田貢さん 愛知県立大学教員 歴史教育者協議会副委員長

討論

教育の現場で使われる「ことば」の背景、そこに隠されている政策意図を読み解きながら、日常の教室の風景を語り合い、生徒の姿を学びの中心に据えて、私たちの教育実践につなげていくためにどうしたらよいかを、参加者みんなで考えます。

研修の権利を行使して 総合研究会に参加しよう！

出張参加可 総研参加で、こんなにいいことが・・・（県教委と確認済み）

- その1 何とんでも、研修を通じて教育的視野の広がり、力量の高まりが期待できる！
- その2 出張参加が可能（校長判断ではあるものの、現在の到達で旅費支給・別途出張あり）
振替休日の取得も可能！
- その3 全国教員研修プラットフォーム「Plant」に研修履歴として登録可能！

申し込みはコチラ

